

# おめでとーいづいづいします

11月3日付けで長末大典さんが旭日双光章、  
生永守さんが瑞宝双光章を受賞しました。

旭日双光章受賞

ながすえ だいすけ  
**長末 大典**さん

(81歳、南白鳥町)

長末さんは、昭和55年に医師会の役員に就き、平成16年から会長に就任。

さまざまな角度から、地域の健康づくりや福祉の向上に尽力しました。

市の健康展にも深くかわわり、運動教室やエイズ教育など時代のニーズに合った新規事業を次々と実施し、住民の疫病予防や健康意識の普及に努めました。

平成8年には、福祉関係の相談窓口や福祉サービスをまとめた「お年寄りのためのしおり」を自費出版。当初500部作成しましたが、話題になり300部を増刷したそうです。

また老朽化していた旧医師会館の移転も手掛け、平成18年に看護学校や休日救急医療センターなどを併せ持つメディカルセンターの開設に奮闘しました。

恩師の「名医より良医になれ」という言葉を胸に、「今後も地域医療の充実や福祉の向上に貢献していきたい」と話しました。

瑞宝双光章

いきなが まもる  
**生永 守**さん

(82歳、桐ヶ丘)

生永さんは、昭和22年に消防士になって以来36年間、優れた統率力と責任感で、田川地区消防の発展に大きく貢献しました。

在職中は、予防課長、消防本部次長、消防監などを歴任。

昭和45年には、1市8町1村で組織する広域消防行政を推進するため、福岡県田川地区消防組合が設立されると、幹部として手腕を発揮。火災予防の原点である防火思想の啓蒙と消防施設の整備に尽力する一方、自主防災の推進及び危険物施設の自主点検の指導を通じて、地域における防災体制の確立に尽力しました。

災害現場に出動すると、隊員たちの陣頭指揮にたち、長年の知識と経験をもとに、迅速・的確な指揮をとりました。

「災害現場は生き物。その土地の地理・地形や気象状況などを瞬時に判断し、状況に応じた指揮をすることを常に心がけていた」と生永さんは当時を振り返りました。

## 「二本煙突」と「竪坑櫓」を 毎日ライトアップ

平成20年の11月から、月初めやイベント開催時などに限りライトアップを実施していた石炭記念公園の「二本煙突」と「竪坑櫓」が、12月から毎日ライトアップされ荘厳で華麗な姿を夜空に浮かび上がらせています。

これは、「ライトアップを見に行ったら点灯されていなかった」とがっかりした知人の姿を見た田川商工会議所女性会の谷口寿美子会長が、「会長就任10年の節目として、毎日ライトアップして田川のPRに役立てて欲しい」とライトアップ費用として100万円を寄付したことによるものです。

寄付を受けた伊藤信勝市長は「街のシンボルが毎日輝くことで、市の将来も明るくなります」と感謝の言葉を話しました。

